

# JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）



表紙：ラオスの風景（パクセーのワット・プーサラオ）

## JDS ラオス帰国留学生 昇進記念インタビュー

・Amphay CHITMANONH 氏

（国民議会法務副委員長 兼 ラオス日本友好議員連盟副会長）

・Bountha SONGYERTHAO 氏

（司法省副大臣）

風呂敷体験講座：一枚の布から学ぶ、日本の心  
筑波大学 JDS 留学生 日本地域学会 優秀発表賞・奨励賞受賞！

世界の朝ごはん：ウズベキスタン

## JDS ラオス 帰国留学生 昇進記念インタビュー



JDS ラオスは 1999 年に事業が開始され、2019 年に 20 周年を迎えました。事業開始当初に JDS 留学を経験した帰国留学生たちが、続々と要職へ昇進し始めています。今回は副大臣級ポストへの昇進を遂げた 2 名へインタビューを行いました。

ラオスでは JDS 事業開始 20 年を迎え、帰国留学生がまさにラオス政府の第一線で活躍しており、副大臣を筆頭に中堅・幹部クラスにも昇進しています。これまで約 400 名が日本の大学で修士号を取得、昨年初めての博士号の取得者も誕生しました。

JDS 帰国留学生が、留学で学んだ知識を活かして業務経験を積み、ラオスの新たなリーダーとして、ラオスの社会・経済的な発展に寄与し、ラオスと日本の友好関係を促進してくれるよう期待しています。

在ラオス日本国大使館・JICA ラオス事務所

## 国民議会法務副委員長 兼 ラオス日本友好議員連盟副会長として活躍中



### —現在の職務は何ですか？

現在は国民議会のメンバーで法務委員会の副委員長を務めています。具体的には、法案の研究、助言を行うほか、各機関が施行する法令の監督、司法手続やビジネスに関する条項を解説する責任を担っています。また、多民族国家であるラオスにおいて、少数民族が暮らす地方の貧困問題の解消に取り組んでいきたいと思っています。

### —日本留学を決めたきっかけは何ですか？日本留学はどうでしたか？

留学前から日本の法制度に興味を持ち、日本の法律を学んでいました。また、名古屋大学が法律学に関して歴史ある大学だと知り、JDS への応募を決めました。日本で学んだ知識は実践的で、ラオスの法制度の整備に活用しています。帰国後 20 年近く経った今でも、名古屋大学に関する情報やニュースをフォローするなど、繋がりを継続しています。特に修士論文を指導してくださった先生方のことは今でも懐かしく思い出します。

アンバイ チットマーノン

Amphay CHITMANONH 氏

名古屋大学法学研究科 2003 年 3 月修了

国民議会法務副委員長/ラオス日本友好議員連盟副会長

## 日本留学を活かし、人々のための政策を実現するリーダーに

### —今回の昇進の経緯と現在の職務を教えてください。

JDS 留学から帰国した後、日本で学んだ法制化プロセスの知識を活かし、刑事局の主任として法案の検討、制定に携わりました。その後、内閣副長官、大臣秘書を務め、判決執行局、公証局、人事局の局長を歴任し、2021 年 4 月に司法省副大臣に昇進しました。現在は、法の普及、司法制度へのアクセスの促進、経済紛争の仲裁、および司法分野の人材育成を担当しています。

### —日本留学を決めたきっかけは何ですか？日本留学はどうでしたか？

留学前から、日本の法制度を研究していました。次第に日本の歴史、文化、日本人についても興味を持ち、日本で学びたいという思いが強くなったため、JDS 留学に応募しました。

当時、参加していた授業に留学生は少なく、中国人や韓国人が数名いる程度でした。日本語で行われる授業で、自分だけ英語で発表することを恥ずかしく感じることもありましたが、それでも最後までやり遂げ、修了式の講堂で、日本の友人たちが胴上げで祝福をしてくれたこと、美しい花束をもらったことは、私の人生でかけがえのない思い出です。

日本留学で得た知識や経験、日々の業務から学ぶことを活かし、人々のために政策を考え、その政策を実現できるリーダーになりたいと思っています。



ブンター ソンユーターオ

Bountha SONGYERTHAO 氏

名古屋大学法学研究科 2004 年 3 月修了

ラオス司法省 副大臣

## 風呂敷体験講座

# 一枚の布から学ぶ、日本の心

9月7日、JICE 北海道支所が主催する風呂敷体験講座に JDS 留学生 7 名が参加しました。

参加者はまず、風呂敷にまつわる 1300 年の歴史と、その使い方から見てくる日本の心、また近年、地球環境に配慮する意味合いで風呂敷が再び注目されていることについて学び、その後、実際に風呂敷の実用的な使い方を体験しました。

参加した JDS 留学生からは、「環境への配慮のためにもエコバッグ風呂敷を積極的に使っていきたい。日本人もっと活用すべき。」「風呂敷という言葉は聞いたことがあったが、初めて体験できてとても嬉しい」「自国の伝統的な布を使って日本の風呂敷包みをすることで文化融合が生まれる」などの声が聞かれました。

一枚の布が様々な形を変え、多目的に使われる日本の知恵に驚きの声が上がリ、参加した留学生や一緒に参加したご家族にも笑顔の広がる講座となりました。



参加者には JDS オリジナル風呂敷が配布されました！

## 筑波大学 JDS 留学生

# 日本地域学会 優秀発表賞・奨励賞受賞！



Mr. Kumar Bipul

2021 年 9 月に修了したバングラデシュ出身の JDS 修士留学生、Mr. Kumar Bipul(筑波大学生命環境科学研究科 環境科学専攻)が、昨年 12 月に開催された日本地域学会第 57 回(2020 年)年次大会において、「Sustainability Understanding of Buriganga River Restoration in Bangladesh by Inclusive Wealth and System Dynamics Modelling(包括的富およびシステム・ダイナミクスモデルによるバングラデシュ国ブリガンガ川再生の持続可能性の理解)」について発表を行い、その発表が若手研究者として卓越したものであり、地域科学や学会の進歩発展に貢献するものであると評価され、「日本地域学会優秀発表賞」を受賞しました。

また、今年ベトナムから来日した JDS 博士留学生、Ms. Vo Hoang Ha(筑波大学理工情報生命学術院 環境科学学位プログラム)も、同じく筑波大学での JDS 修士留学生当時の研究成果をまとめた論文「Determinants of Farmers' Adaptation Decisions to Climate Change in the Central Coastal Region of Vietnam(ベトナム中部沿岸地域の気候変動に対する農業従事者の適応意思決定の決定要因)」が認められ、本年 10 月に行われた日本地域学会学会賞授賞式にて、優れた研究論文を発表した若手研究者として、「日本地域学会奨励賞」を受賞しました。



Ms. Vo Hoang Ha



今回は中央アジアの国、ウズベキスタンの朝ごはんを紹介します。ウズベキスタンの人達は甘い、塩辛いなど味が濃いものが大好きです。朝食も、日本人から見ると甘めのものが多く並び、食事というより軽めに楽しむ家庭が多いそうです。お米もよく食べられていますが、主食は「non」と呼ばれるパン。それにつけて食べるサワークリーム、はちみつ、ナッツ、ぶどう、レーズン、そして紅茶と yellow sugar が食卓に並びます。

*Yellow sugar*

Yellow sugarとは、「navvat」と呼ばれる砂糖を煮詰めて固めたもので、ウズベキスタンでは砂糖より体によいとされ、風邪など体が弱った際、紅茶に入れてよく飲まれているそうです。一見鬼の金棒のような見た目ですが、棒を持って熱々の紅茶に入れて混ぜ、必要な分だけ溶かしたら、残りは繰り返し使えるというなかなかの優れもの。混ぜるのが楽しくて、ついつい甘くしてしまいそうですね。



### Somsa (サモサ)



こちらは定番のサモサ。ランチに食べられることも多いようです。外はサクサクのパイ生地で、中には主に牛肉、羊肉、ジャガイモを入れて食べます。春には緑の野菜、秋にはカボチャを入れたり、季節によって、家庭によっても中身が異なり、バリエーション豊かだそうです。日本のおにぎりのような感覚で親しまれているサモサ。ぜひ一度食べてみたいですね!

またウズベキスタンといえば、綿花柄の鮮やかなブルーの食器も有名。華やかな食器と美味しい食事、朝から食卓が明るく元気になりますね。

写真の料理はすべてJDS ウズベキスタン事務所、現地スタッフの手作りです!

## JDS 3つの特徴

- 1 **行政官限定事業**  
※一部例外がございます
- 2 **5,410名 21カ国の実績**  
※事業終了国の人数も含む
- 3 **大臣・局長級を輩出**

対象国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得します。

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

#### <事業実施対象国> ※受入人数順

ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス、バングラデシュ、フィリピン、ウズベキスタン、モンゴル、キルギス、パキスタン、スリランカ、ネパール、ガーナ、ブータン、東ティモール、タジキスタン、ケニア、エルサルバドル、モルディブ

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に着け帰国した留学生は、日本との政策対話に携わる等、様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画 (JDS) は無償資金協力による JICA 留学生受入支援事業です。

## Editor's Note

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

今月の表紙写真はラオス南部のパクセーという街にあるワット・プーサラオの写真です。(ワットは「お寺」という意味。) ゴールデンブッダと呼ばれる大きな仏像の後ろ姿とともに、メコン川やパクセーの街並みを眺めることができます。特に夕日の見える時間帯は、現地の人々にも人気な写真スポットだそうです。年末、1年の振り返りをしながらこの景色を眺めることができたなら、晴れやかな気持ちで1年の締めくくりを迎えられそうです。

JDS 事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

### 【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター (JICE)  
留学生事業第一部 留学生事業課 広報担当  
E-MAIL: jds.PR@jice.org